

(図画工作科)

楽しく造形活動に取り組み、自分の思いを表現しようとする子どもを育てる

大阪市立長池小学校 研究部

1. はじめに

本校では、「ねばり強い子どもを育てる」を教育目標に、「個性が輝く学校」を学校経営の重点にかかげ、自ら学ぼうとする姿勢として「進んで学習に取り組む」、自他を尊重した態度として「望ましい人間関係を育成する」、健康づくりと体力の向上として「健全な生活習慣を養う」ことをめざし、教育活動を推進している。

子どもたちは、幼いころから、身近なものや人とふれ合いながら生き、自ら働きかけたり、周りから働きかけられたりしながら成長する。その過程において、地面や紙などに線や形をかいて意味づけをしたり、身近な材料を積んで組み立て方を工夫したりする活動においては、「見たり感じたりする力」や「次にどのような形にするかを考える力」、また「それを実現するために、用具や表現方法を工夫する力」など、子どもたちの造形的な資質や能力が自然と発揮される姿を見ることができる。それらの活動を通して味わうことができるつくり出す喜びは、子どもたちの成長にとって極めて大切なものであり、豊かな心を育てるとともに、心身の調和的な発達を促す。つまり、豊かな造形活動を通して、人間性の基盤となる感性を培うためには、子どもたちに備わっている造形的な資質や能力を伸ばし、つくり出す喜びを味わうようにすることが肝要である、また、生活や人と主体的に関わる態度を育て、情操を養うことは、社会の変化に対応し、心豊かに、主体的に生きていくために、さらには自己実現を図るために欠かすことができない。

これらをふまえ、子どもたちの感性を磨き、表現力を高めることをめざして、「楽しく造形活動に取り組み、自分の思いを表現しようとする子どもを育てる」を研究主題とし、研究に取り組んだ。

2. 研究の内容

【1】研究の基本的な考え方

図画工作科では、「表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、自らつくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創作活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う」ことを目標としている。また、新学習指導要領においては、「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方や考え方を働かせ、生活や社会の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す」となっている。

子どもたちが、自らの感性を働かせながら、作品をつくったり見たりすることは、子どもたちの欲求を満たすとともに、自分の存在を感じつつ、新しいものや未知の世界に向かう楽しさにもつながる。つまり、子どもたちが自らつくりだす喜びは、子どもたちの成長にとって極めて大切なものであり、豊かな心を育てるとともに、心身の調和的な発達を促すことになる。そのためには、つくりだす喜びを味わえるようにし、一人一人のよさを生かした造形活動の能力を高めていく必要がある。

さらに、新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められてお

り、図画工作科においては、題材などの内容や指導計画のなどの時間のまとまりの中で、子どもの実態や指導内容に応じた授業改善の取り組みが必要となってくる。

これらのことをふまえ、次の4点を柱として、研究を進めることにした。

(1) 子どもたちが意欲的に造形活動に取り組める題材の開発を行う

- (2) 子どもたちが自分の思いを表現するための指導法を研究する
- (3) 子どもたちが作品のよさを感じとり、認め合うための鑑賞のあり方を工夫する
- (4) 新学習指導要領をふまえた指導計画の作成や授業改善を行う

【2】 研究の方法

- (1) 子どもたちが意欲的に造形活動に取り組める題材の開発を行う
 - (表現に多様性や発展性がある題材、子どもの生活経験をふまえた興味・関心の持てる題材、表現の基礎的・基本的な事柄をふまえた題材)
- (2) 子どもたちが自分の思いを表現するための指導法を研究する
 - ① 材料・用具の扱いにおける基礎的・基本的な事柄の指導の工夫
 - ② 材料・用具の準備や整備、場の設定の工夫
 - ③ 表現を豊かにする手立ての工夫（学習指導材、ICTの活用など）
- (3) 子どもたちが作品のよさを感じとり、認め合うための鑑賞のあり方を工夫する
 - ① 子ども一人一人の思いや表現のよさを認める支援や評価の工夫
 - ② 友だちの発想や表現のよさを感じとり、認め合う工夫
- (4) 新学習指導要領をふまえた指導計画の作成や授業改善を行う
 - ① 子どもたちが主体的に取り組むことができる題材の設定や指導計画、学習過程の工夫
 - ② 対話的な学習を進めるための言語活動の充実
 - ③ 子どもたちの感性を磨き、深い学びにつながる表現・鑑賞の工夫

3. 研究のまとめ

【1】 研究の成果

- 子どもの発達段階をふまえ、表現に多様性のある題材など、意欲的に取り組める題材の開発や活動内容の工夫に努めた結果、子どもたちは想像をふくらませたりイメージを広げたりしながら、楽しんで表現することができるようになった。
- 多様な材料・用具を準備したり場の設定を工夫したりしながら、材料・用具の扱いに関する基礎的・基本的な事柄について指導を積み重ねたり、いろいろな表現方法を経験させたりした結果、子どもたちの表現が豊かになってきた。
- 子どもたちの思いを大切にしながら、そのよさを生かせるような支援をしたり活動内容に応じたICTの活用などの手立てを工夫したりすることで、自信を持って、自分なりの表現方法で表現することができるようになってきた。
- 自分の作品について発表したり、互いの作品を鑑賞したりすることを通して、自分や友だちの作品のよさに気づき、さらなる意欲につなげることができた。また、美術展での鑑賞活動において、感じたことなどを交流しながら優れた作品にふれることで、感性を高めることができた。

【2】 今後の課題

- 子どもの発想や表現が広がり、意欲的に取り組むことができる題材の開発をさらに進める。
- 豊かな表現活動につながる表現方法や材料・用具の扱いに関する基礎的・基本的な事柄について、学年の発達段階に応じて系統的に指導することをふまえ、年間指導計画を作成する。
- 子どもたち一人一人が豊かに発想し、自分の思いを進んで楽しく表現できるよう支援と題材の内容に応じた評価のあり方をさらに研究する。